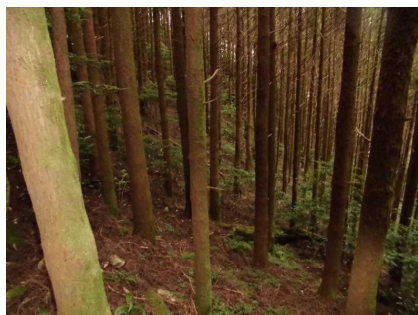


事例 緑の回廊における針広混交林化の取組

九州森林管理局では、野生動植物の移動経路の連続性を確保し、生育・生息地の拡大や相互交流を図るため、「緑の回廊」を設定し、人工林内に自然に生えた広葉樹を積極的に保残するなど、野生生物の生育・生息環境に配慮した施業を行っています。

大隅森林管理署では、「大隅半島緑の回廊」における、より一層の森林生態系の保全に努めるため、人工林の針広混交林化を目指した取組として、人工林内における広葉樹などの稚幼樹の成長に当たって間伐の有効性を調査するモデル林を設定しています。平成23年度に間伐を実施し、27年度に林床植生の生長量を調査したところ、広葉樹の稚幼樹が多数発生し樹高の生長が見られることが確認されました。今後は、間伐未実施地との比較やモデル林を活用した現地検討会を開催することとしています。

(九州森林管理局 大隅森林管理署)



場 所：鹿児島県肝属郡錦江町 荒西国有林
 説 明：写真は、モデル林の無間伐区の様子（左上）と間伐を実施し広葉樹が侵入した様子（右上）、モデル林の案内板（下）です。